

重点事項

重点事項のポイント

1 『安全』 防災の高度化の推進と交通安全対策・危機管理の強化

津波に対する人命の重点防護 36頁

津波による人命・財産の被害を防護することを目的としたハード整備と、緊急的に人命を防護することを目的とした避難対策等のソフト施策とを一体的に推進する。

甚大な高潮災害に対する臨海部の緊急防護 37頁

平成16年台風16号により甚大な高潮災害を経験した地域において、短期間で集中的な海岸保全施設整備を行い、再度災害発生を防止を促進する。

臨海部人口集積地等における海岸防災対策の重点実施 38頁

ゼロ・メートル地帯が広がる大都市圏臨海部などの海岸において、老朽化が顕著な海岸保全施設の大規模改修や耐震強化を図るとともに、深刻な侵食被害を受けている海岸において、抜本的な侵食対策を推進する。

津波・高潮防災ステーションによる海岸防災機能の高度化 39頁

津波・高潮発生時における情報収集機能、情報伝達機能及び水門・陸こう等閉鎖の遠隔操作機能を備えた津波・高潮防災ステーションの整備を推進する。

災害弱者対策の推進 39頁

子供や高齢者、障害者等の災害弱者を津波・高潮などによる災害から防護する災害弱者対策を推進する。

2 『暮らし』 生活空間の充実等を通じた豊かな生活の実現

ユニバーサルデザインによる快適な海辺の実現 40頁

ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、地域の教育・福祉行政等とも連携しつつ、訪れる全ての人々が利用しやすい海岸づくりを推進する。

地域住民、NPO等と連携した住民参加型の海辺づくり 40頁

事業の計画段階からの地域住民等の参加や海岸清掃等の日常管理への住民参加など地域と一体となった里浜を目指した海岸づくりを推進する。

3 『環境』 地球環境から身近な生活環境までの保全・創造

海辺の環境の保全・創造 41頁

海辺の自然環境の積極的な保全や快適な海岸利用の促進に資する海岸づくりを積極的に進める。

4 『活力』 国際競争力の強化、都市再生、地域連携や観光振興等を通じた、魅力と活力にあふれる経済社会の形成

観光振興等を通じた地域活性化に資する海岸の保全・創造 41頁

美しい海岸景観、海辺の文化資源の保全・創造により、観光振興や美しい国づくりを通じた地域の活性化を図る。

1 『安全』防災の高度化の推進と交通安全対策・危機管理の強化

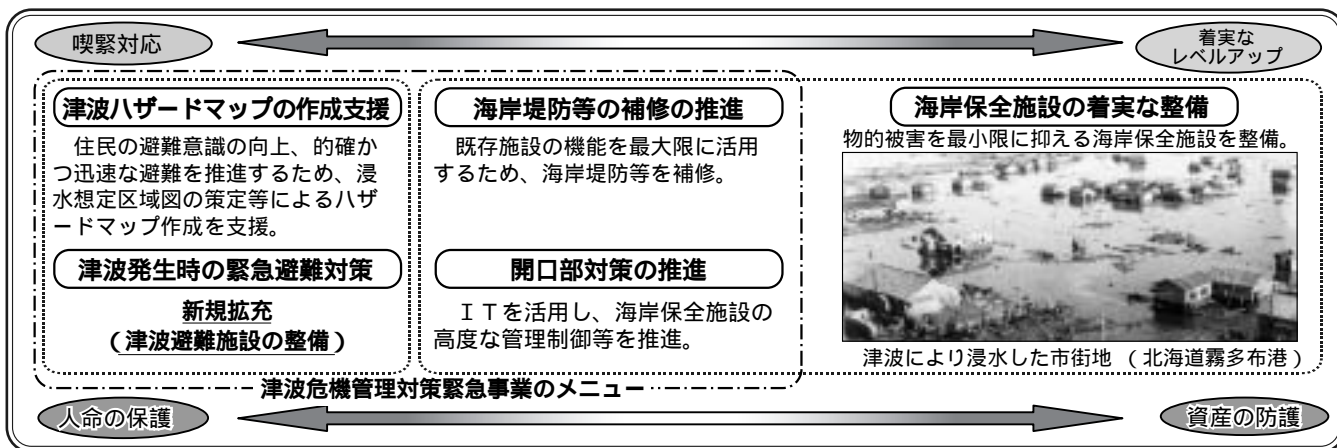
指標：津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の面積【約15万ha（H14） 約12.9万ha（H16） 約10万ha（H19）】
 指標：地震時に防護施設の崩壊による水害が発生する恐れのある地域の解消【約13,000ha（H14） 約11,700ha（H16） 約10,000ha（H19）】

事業費約424億円（対前年度比1.14） 国費約239億円（対前年度比1.09）

津波に対する人命の重点防護

大規模地震の発生が切迫している中、津波被害リスクのある地域における安全確保が重要な課題となっている。このため、津波による人命・財産の被害を防護することを目的としたハード整備と、緊急的に人命を防護することを目的とした避難対策等のソフト施策とを一体的に推進することにより、国民の安全・安心を確保する。

ハード・ソフト一体となった津波対策のイメージ



津波ハザードマップ(徳島県由岐町)

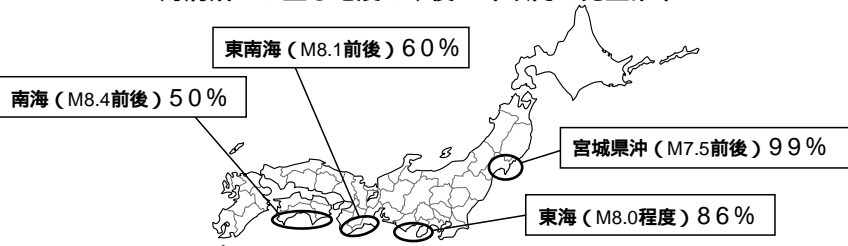


津波防波堤の整備



須崎海岸(高知県)

地域中枢機能集積地区における緊急津波対策 海溝沿いの主な地震の今後30年以内の発生確率



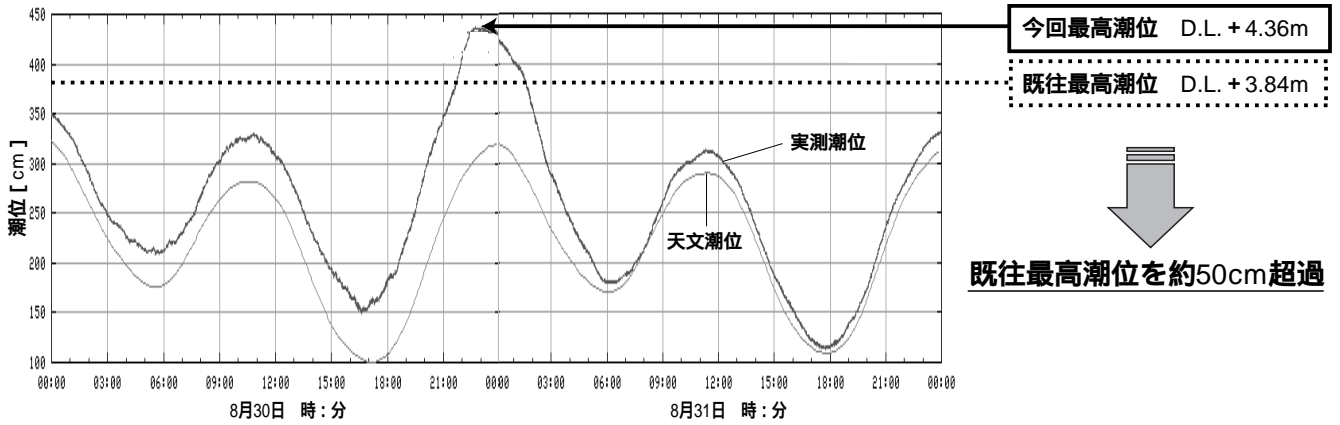
地域中枢機能集積地区において、今後、約5年程度で開口部の水門等の自動化・遠隔操作化を概成するとともに、堤防等の耐震化や嵩上げを促進

地域中枢機能集積地区：背後に救援、復旧等の危機管理を担う施設（市町村役場、警察・消防署、病院等）

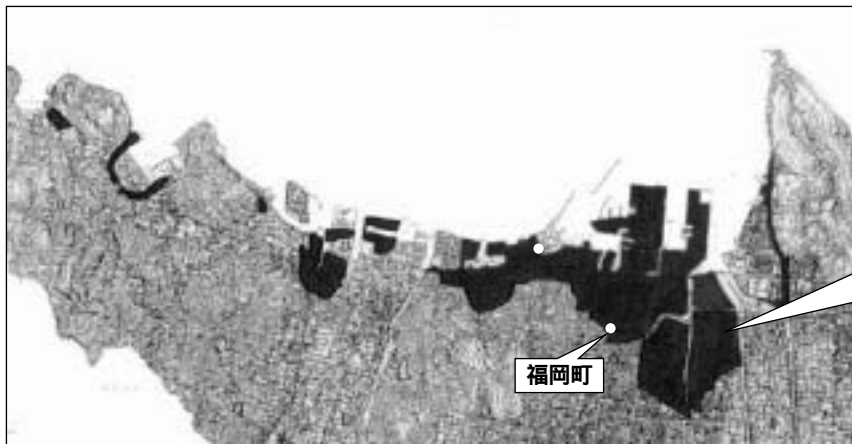
甚大な高潮災害に対する臨海部の緊急防護

平成16年台風16号においては、香川県高松市で1万5千戸、岡山県倉敷市で4千戸、岡山県玉野市で2千戸を超える甚大な浸水被害が発生。再度災害発生の防止を促進する観点から、特に緊急に背後地を防護する必要性の高い海岸について、「災害対策重点海岸」に位置づけ、概ね5年間程度の予算の重点配分を行う。

平成16年台風16号発生時における高松港の潮位観測記録



平成16年台風16号による高松市の高潮浸水地域



高松市浸水被害	
床上浸水	3,810戸
床下浸水	11,751戸
合計	15,561戸

平成16年台風16号による浸水状況



高松市福岡町（香川県）



倉敷市玉島勇崎（岡山県）

「災害対策重点海岸」：高松港海岸高松中地区・浜ノ町地区・朝日町地区・香西本町地区
 水島港海岸柏島地区・勇崎宝亀地区
 宇野港海岸宇野地区・高辺地区

臨海部人口集積地等における海岸防災対策の重点実施

多くの人命や財産が集積する臨海部人口集積地等の海岸において、特にゼロ・メートル地帯の防護を中心に、機能低下が顕著な海岸保全施設の大規模な改修や耐震強化等を図る。

また、平成16年台風23号の高波により、菜生海岸（高知県）がこれまで経験のない形態で被災したことを受け、同様の危険性を有する海岸において、緊急的に海岸保全施設の補修・強化を図る。

さらに、激しい冬季風浪等により深刻な侵食被害を受けている海岸において、抜本的な侵食対策等を推進する。

東京港海岸背後のゼロ・メートル地帯



3大都市圏(東京、大阪、愛知)における海岸保全施設の耐震性能

耐震性あり	調査を要する	耐震化が必要
32.9%	30.9%	36.3%

1 対象 = 該当市区町村の海岸保全施設（新設予定含む）延長
2 合計は四捨五入の関係で100%となっていない

建設後40年以上経過した海岸保全施設が多い3大都市圏

整備年	3大都市圏(東京、大阪、愛知)の港湾海岸保全施設延長	
	延長	割合
1960年以前	165km	50%
1961年～1965年	38km	12%
1966年～1975年	49km	15%
1976年～1985年	32km	10%
1986年～現在	33km	10%
不明	10km	3%
合計	327km	100%

菜生海岸災害を教訓とした緊急対策

- ・計画波高を超える観測史上最大の高波により、海岸堤防が約30mにわたって倒壊・流出。
- ・家屋13棟が倒壊し、3名が死亡、4名が負傷。

これまでの海岸災害では経験のない形態での被災



菜生災害を教訓として壊滅的被害を防止するため
全国緊急点検の実施

菜生海岸災害と同様な危険を有する施設の強化・補修
堤防倒壊の場合、背後の民家等に対して人的被害を含む甚大な被害が生じる危険が高く、緊急の対応を要する地区における施設の強化・補修を概ね5年間で重点実施

日本海における冬季風浪の状況



新潟港海岸（新潟県）

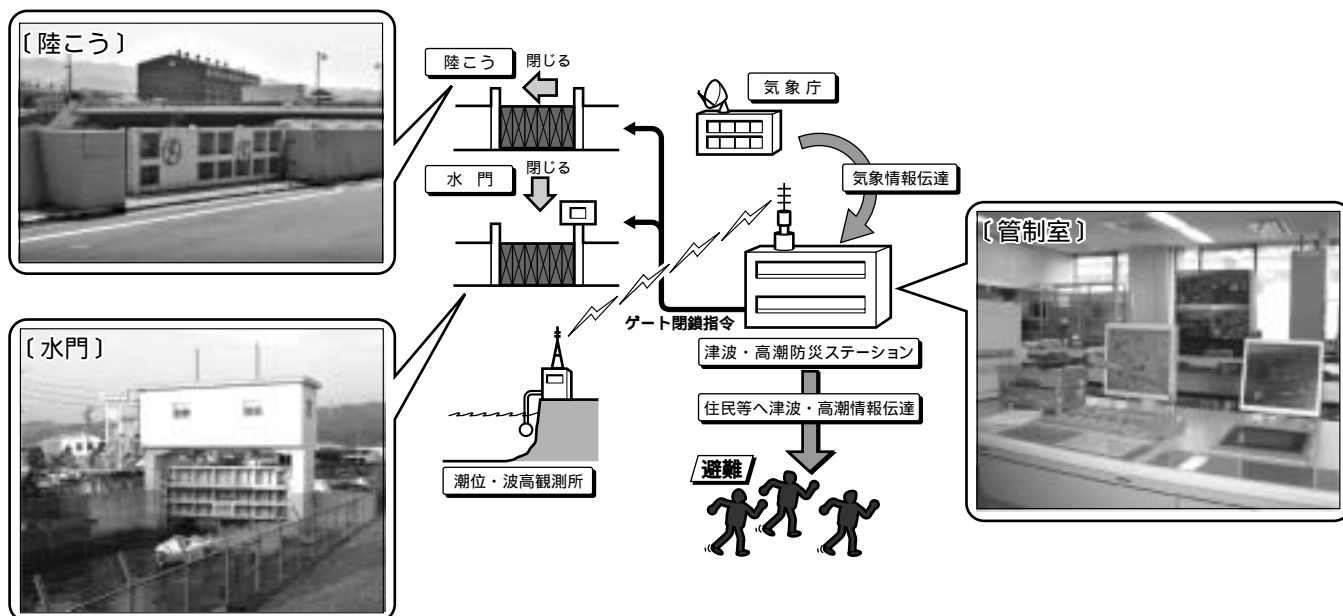
新潟港海岸の整備状況（平成16年度末現在）



津波・高潮防災ステーションによる海岸防災機能の高度化

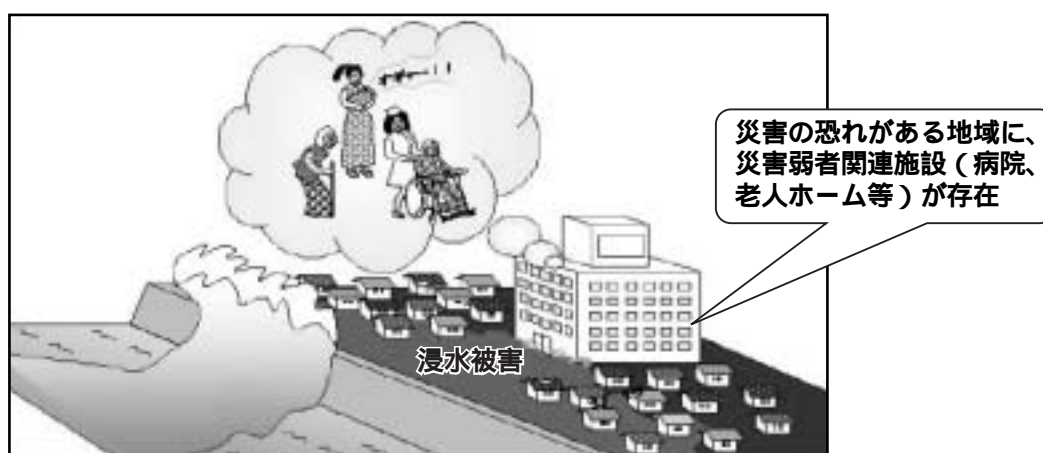
津波・高潮発生時における情報収集機能、情報伝達機能及び水門・陸こう等閉鎖の遠隔操作機能を備えた津波・高潮防災ステーションの整備を推進する。

津波・高潮防災ステーションによる海岸防災機能の高度化のイメージ



災害弱者対策の推進

我が国の沿岸地域は、津波・高潮等の海岸災害に対し脆弱な特性を有している一方で、その良好な自然環境等から子供、高齢者、障害者等の災害弱者が利用する施設が数多く存在している。このため、津波・高潮等の海岸災害から災害弱者を防護するとともに、安全かつ安心な生活基盤を確保する。



災害弱者対策の内容

- ・ 災害弱者が容易に利用できる緩傾斜堤の整備や既存施設のバリアフリー化
- ・ 安全情報伝達施設の整備
- ・ 避難用通路を兼用した管理用通路の整備

2 『暮らし』生活空間の充実等を通じた豊かな生活の実現

指標：人々が海辺に親しむことのできる海岸の延長【約6,700km(H14) 約6,780km(H16) 約6,800km(H19)】

事業費約56億円(対前年度比1.10) 国費約32億円(対前年度比1.11)

ユニバーサルデザインによる快適な海辺の実現

ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、地域の教育・福祉行政等とも連携しつつ、訪れる全ての人々が利用しやすい海岸づくりを推進する。

利用しやすく、海辺へのアクセスがしやすいユニバーサルデザインに配慮した海岸づくり



浦港海岸(兵庫県)

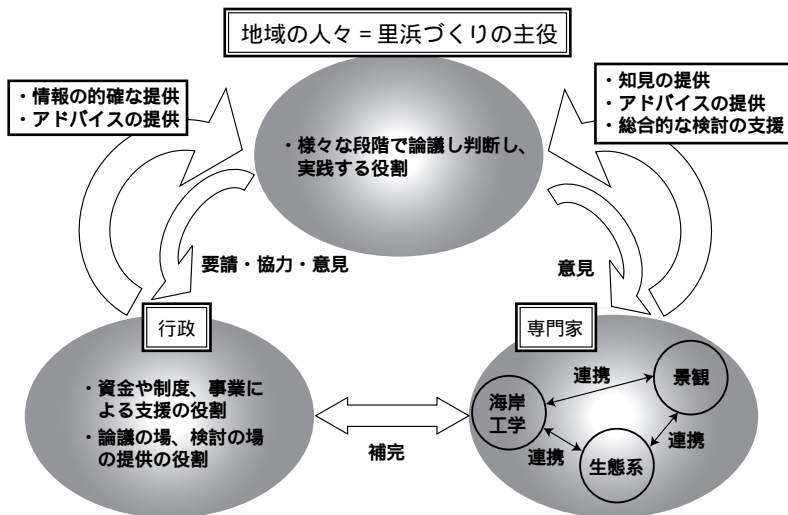


有川港海岸(長崎県)

地域住民、NPO等と連携した住民参加型の海辺づくり

地域住民やNPO等との連携強化により、地域の自然環境や地域固有の歴史を生かした海辺と人々のつながりの密接化を促進し、かつての多様で豊かな海辺と人々のつながりを現代の暮らしに叶う形で蘇らせる「里浜づくり」を推進する。

里浜づくりにおける協働作業のイメージ



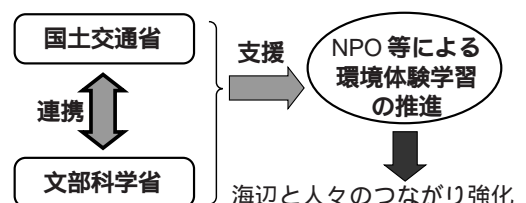
地域の人々、行政、専門家の協働(パートナーシップ)により、人と海辺の関わりを深め、それぞれの地域の特性を活かした「海辺の文化」を創造することが必要である。

地元住民との連携事例(海岸清掃)



敦賀港海岸(福井県)

NPO等との連携事例(子ども体験型環境学習)



3 『環境』 地球環境から身近な生活環境までの保全・創造

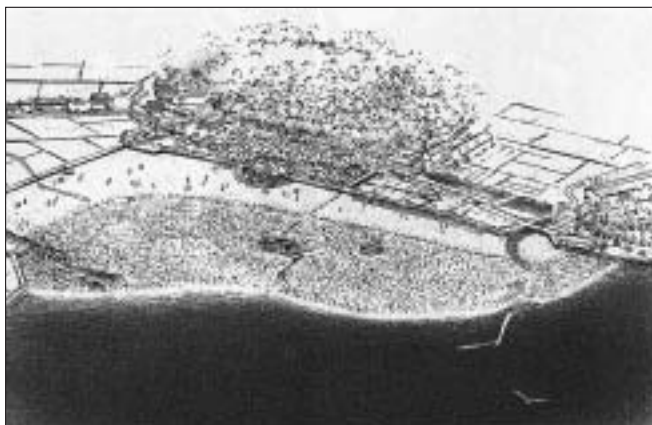
指標：失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合〔(H14) 約8% (H16) H19までに約2割再生〕

事業費約13億円（対前年度比1.13）、国費約6億円（対前年度比1.10）

海辺の環境の保全・創造

多様な生物の生息・生育や優れた自然環境の形成など自然環境の積極的な保全や快適な海岸利用の促進及び背後地の生活環境の向上に資する海岸づくりを積極的に進める。

生物の生息環境に配慮した海辺づくり



濁筋やタイドプールの確保や養浜する粒径を高さ別に变化させることにより、稀少生物（カブトガニ、スナガニ）等の生息環境を確保・拡大する。

竹原港海岸（広島県）

自然との調和に配慮した石積の突堤



手結港海岸（高知県）

4 『活力』 国際競争力の強化、都市再生、地域連携や観光振興等を通じた、魅力と活力にあふれる経済社会の形成

事業費約27億円（対前年度比0.93）、国費約21億円（対前年度比1.09）

観光振興等を通じた地域活性化に資する海岸の保全・創造

史跡、景勝岩などの美しい海岸景観、海辺の文化資源の保全・創造により、観光振興や美しい国づくりを通じた地域の活性化を図る。

日本三景 宮島



厳島港海岸（広島県）

観光振興に資する海岸づくり



熱海港海岸（静岡県）